おおみや教会通信　クリスマス号　2024.12.22　発行

Newsletter of Omiya Catholic Church

おおみや教会通信

カトリック大宮教会

主のご降誕おめでとうございます。

世の中の情勢は刻々と変化し、異常気象や景気の低迷などマイナス面が目立つこの頃です。

何年か前まではもう少し希望に満ちた明るい社会だったように思いますが、今は先行きが不透明で、「明るい未来」は到底期待できないような状況に見えます。

時々思います。自分がキリストと出会っていなかったら、どんなにか辛く、暗く、心細い気持ちで暮らさなければならなかっただろうと。自分の周りの信仰を持たない人たちはよく平気でいられるな、と思います。まるで目をつぶって自転車をこいでいるような、とても危険で心もとない歩き方をしているように思います。

世の中がどんな状態にあろうとも、必ずクリスマスがやってきます。そしてそのたびに、神様がとんでもなく素晴らしい贈り物—キリスト—を私たちに与えてくださったという喜びを体験できることは、この上なくありがたいことです。自分の周りの人たちにもこの喜びを分けて差し上げたいと思います。

みんなで心を合わせて、この素晴らしい贈り物に感謝の祈りを捧げましょう！

クリスマス・元旦のミサのスケジュール

12 月 24 日（火）　19：00～　主の降誕夜半ミサ
12 月 25 日（水）　10：00～　主の降誕日中ミサ
1 月　1 日（水）　11：00～　神の母聖マリアのミサ

黙想会が行われました

12 月 8 日にイエズス会のバレンタイン・デ・スーザ神父様をお迎えして行った黙想会には多くの皆様が参加され、よい学び、分かち合いができました。

黙想会によせて

今回の黙想会に参加できて神に感謝しています。教会の祈りの「晩の祈り」で毎晩、マリアの賛歌を唱えますが、デ・スーザ神父様の話のおかげで唱えながらもっと深く神の神秘について考えることができます。

降誕祭の向けてのいい精神的な準備になったと思います。

見沼区　タートン

内容【クリスマス・元旦のミサのスケジュール】【黙想会が行われました】
【信徒委員会】【典礼部】クリスマス飾付【総務部】駐車場・受付当番・自主グループ登録
【青少年養成部】初聖体【成人養成部】【毎日のミサ購読】【サンパウロ出張販売】
【入門式】【山口神父様クリスマスメッセージ】【サモア～主によばれて（３４)】

＜信徒委員会・各部からのお知らせ＞

＜信徒委員会より＞

＊毎月第一日曜日は集会祭儀を行っていますが、来年１月５日より、北浦和教会の松井神父様の司式によるミサとなります。

＜典礼部より＞

クリスマスの飾りつけについて

＊馬小屋とイルミネーションの設置にご協力ありがとうございました。

＊1 月 12 日（日）ミサ前に撤去作業を行う予定です。ご協力お願いします。

＜総務部より＞

＊駐車場を利用する場合は必ず駐車許可証をダッシュボードに置いてください。（小聖堂・幼稚園事務所棟前に駐車する場合も）駐車許可証を持っていない方は、受付で届け出をしてください。門の前のスペースは緊急車両用ですので、絶対に駐車しないでください。

＊受付当番：年末年始（12 月 27 日（金）、1 月 3 日（金））はお休みします。

＊来年度の自主グループの登録を受け付けます。すでに登録済みのグループも更新手続きが必要です。（伊藤さんまで）

＜青少年養成部より＞

初聖体の勉強会が始まります。

＊初聖体　2025 年 6 月 15 日（日）　11：00 ～のﾐｻ中

＊勉強会　2025 年 1 月 19 日（日）
11：00(ﾐｻ)～15：00
3 月 16 日（日）　〃
5 月 18 日（日）　〃
6 月 14 日（土）
10：00～12：00

対象：現在小学 2 年生以上
持ち物：昼食・飲み物・筆記用具
・ミサに必ず与って下さい。
・勉強会には毎回参加してください。
・日程は変更になる場合があります。
・希望される方は受付の用紙に記入して斉藤まで提出してください。
（締め切り：2025 年 1 月 12 日（日））

＜成人養成部より＞

CAS（クリスチャンアートスペース）展覧会

11 月末までの予定でしたが、12 月 25 日まで延長することになりました。ゆっくりご覧ください。参加してみたいと思う方は遠慮なくお声がけください。（担当：石崎、槻田）

＜毎日のミサの年間購読について＞

「毎日のミサ」の年間購読を個人でされている方へご提案です。

大宮教会で「共同購入」をされませんか。共同購入されることで、カトリック出版部より、大宮教会への特典として、神父様の購読分、教会使用分の補填が増えます。どうぞご検討ください。尚、大宮教会の共同購入の期間は、新年度からとなります。申し込みは、2 月よりお受けします。

「毎日のミサ」購読係　須田

＜サンパウロ出張販売＞

山野井さんのご紹介で 12 月 15 日サンパウロが出張販売に来てくださいました。

カレンダーや手帳だけでなく、書籍の他、小物や食品、様々なクリスマス雑貨など、これまでになかったほどのバラエティに富んだ品ぞろえで、財布の紐が緩んだ方も多かったと思います。ありがとうございました。

＜入門式＞

来年の復活徹夜祭ミサでの洗礼式をめざして
準備中のお二人の入門式が 12 月 15 日のミサの中で
行われました。お二人のために祈りましょう。

希望の力

主任司祭　フランシスコ　山口　一彦

私の座右の書は『レ・ミゼラブル』です。何度読み返したか分かりません。登場人物が型にハマり過ぎている、人間関係があまりにも都合良く出来ていてリアリティに欠けているなど、様々な批判がありながらも、多くの読者を惹きつけて止まない魅力があります。ヨーロッパでは『第２の聖書』と讃えられているビクトル・ユゴーの傑作です。

主人公ジャン・バルジャンは貧しさの余り、ひと切れのパンを盗み、刑務所暮らしを始めますが、自由を求めて脱走を繰り返しては捕まります。１９年間にも及んだ刑期を終え、社会への復讐心を抱えたまま娑婆に出て来ます。しかし、聖人のようなミリエル司教との出会いによって、正しい道を歩み始めます。

一方、これも貧しさに窮した女性ファンチーヌは、まだ物心もつかない幼子コゼットを、旅先でたまたま出会った宿屋の主人テナルディエに預けてしまう。ところがテナルディエ夫妻はコゼットをうとましく思い、ボロを着せて一日中朝から晩までこき使う。母親の顔も愛情も知らないまま育ったコゼットは、クリスマス・イブの夜遅く、森の中の泉へ水を汲みに行かされた時、暗闇の中で初めてジャン・バルジャンと出会います。

この森の中でのシーンは有名ですが、その夜、テナルディエの宿で皆が寝静まった後、人知れず行われたささやかな光景を、ご紹介いたしましょう。

男（ジャン・バルジャン）が引き返そうとした時、暖炉に目がとまった。宿屋の暖炉にはよくあるやつで、こういう暖炉は火の入っている時でも、決まってごくわずかな火しかなく、見るからに寒々としているものである。今その暖炉に火はなく、灰さえもなかった。それなのに、その暖炉に男の注意を引きつけたものがあった。それは、可愛らしい形をした、大きさの不ぞろいな、二つの子ども靴だった。男は、クリスマスの日に、暖炉にはき物を置いて、親切な妖精が素敵な贈り物を持って来てくれるのを暗闇で待つ、あの美しく古い子どもの習わしを思い出した。テナルディエの二人の娘、エポニーヌとアゼルマも、この習わしを忘れるはずがなかった。それで二人とも、自分の靴を片方ずつ、暖炉に置いていたのだった。

男は身をかがめた。妖精、つまり母親は、もうやって来たとみえて、どちらの靴の中にも、真新しい素敵な１０スー銀貨が光っていた。男は身を起こして立ち去ろうとすると、少し離れた奥の方の火床の一番暗い所に、もう一つ何かがあるのに気がついた。よく見ると、片方の木靴だと分かった。半分壊れかけた、一番粗末な木でこしらえた惨めな木靴で、灰と乾いた泥にまみれていた。それがコゼットの木靴だった。コゼットは、いくらだまされても決して気を落とさない、子どもらしくいじらしい信頼から、彼女もまた、暖炉に自分の木靴を置いていたのである。失望しか味わったことのない子どもの心に宿る希望。それは気高く美しいものである。

その木靴には何も入っていなかった。見知らぬ男は、チョッキを探り、かがみ込んで、コゼットの木靴に一枚のルイ金貨を入れた。それから、忍び足で自分の部屋に帰った。（佐藤朔訳：新潮文庫『レ・ミゼラブル』第２巻 163 頁）

この物語は、何度も映画やミュージカルになっています。でも、上記の場面が描かれることは、まずありません。子ども向けの翻訳本『ああ無情』『ジャン・バルジャン物語』でも、省略されています。ドラマチックな展開が読者を魅了するストーリーの中では、つい見過ごされがちな一節ですが、私はここに、クリスマスの本質を感じます。

コゼットの粗末な木靴……それは、誰からも顧みられずに、うとまれ、虐げられ、寒さと暴力と空腹の中で、何の楽しみも愛情も知らずに生きている８歳の女の子が、それでも心の奥に灯しているかすかな希望の象徴です。この悲しい物語は、二百年ほど前のフランスが舞台ですが、同じような思いで暮らしている子どもたちは、現代の日本にもたくさんいることでしょう。子どもだけではありません。日本だけでもありません。あらゆる国の、あらゆる年齢の人々が、自分ではどうしようもない苦悩にひたすら耐えながら、小さな小さな希望を抱きしめて、このクリスマスを迎えていることでしょう。

ジャン・バルジャンが木靴に入れたルイ金貨……それは、粗末な飼い葉桶に入れられた幼子イエス様の姿です。同じような苦悩と孤独に耐えた男の手で、救いが運ばれて来たのです。コゼットが小さな胸に秘めていた希望が、救いを呼び寄せたのです。二人はこの後、お互いに支え合って生きていくことになります。

「希望とは、弱く小さな者たちが持つ力です」……今のパパ様、フランシスコ教皇様の言葉です。様々な試練に翻弄されながらも、「希望」が持つ「力」を信じたいものです。

✝　サモア～主に呼ばれて　（34）✝

サモアに着いたばかりの時は、手持ちの服だけだったので、T シャツに短パン、靴はスニーカーでした。靴はさすがに暑いので、サンダルをすぐに買いました。サンダルといってもおしゃれなものはなく、昔のビーチサンダルです。ゴムで作ってあって、日本でも昭和 40 年代くらいまで売っていたものです。サモア人もほとんどの人がこのサンダルを履いていました。夏に行った時に、サモア人の足元を見たら、そのサンダルを履いている人はほぼいなかったので、びっくりしました。服の方は、男性はサモア人も上は T シャツです。下は、ラバラバという１枚の布を腰巻のように巻きます。女性はワンピース（佳美は、ムームーのようだと言っていました。）を着ている人も多いです。どちらかというと年配の体型が大柄の人が着ているイメージです。そこで、私もさっそく１枚布を購入しました。シスターがラバラバを作ってあげるから布を買ってきなさいと言ってくれたので、ミサ用の白いラバラバと何かあった時のための青いラバラバを作ってもらいました。サモアの人たちは教会に来るときは白い服や白いラバラバが多かったです。

ラバラバを買ってからは、涼しいのでほとんどラバラバでした。また、水浴びする時もラバラバ１枚だけ着て、校庭の端にある水道の蛇口で水浴びします。こういうときはやはり便利です。模様はハイビスカスなどの熱帯の花をモチーフにしたものが多かったですが、途中からタイダイという絞り染めのものがはやり始めました。

８月中旬に佳美が結婚式の打ち合わせなどのために、サモアに来ました。日本からは直行便がないので、フィジー経由で来てくれました。当時のサモアの空港は日本の空港と違って、ターミナルビルに直接行けず、飛行機からタラップという階段がついている車を横づけにして、その階段で降りてきます。ターミナルビルも小さいので、飛行機を降りてくるところから、しっかり見えました。そのターミナルビルも当時は小屋という程度のものでした。今では日本の援助でできた立派なターミナルビルができ、飛行機の乗り降りもボーディングブリッジでターミナルビルに直結です。

佳美が来て、最初の土曜日に教会で婚約式をしてもらいました。神父さんにお願いしたら、快諾してくださり、教会の聖堂で行いました。シスターたちはもちろんのこと、ボランティアの仲間も参加してくれました。終わってから、シスターがティーパーティーでお祝いしてくれました。

当時は、聖堂の横の穴のようなものにドアはついておらず、外から丸見え状態でしたし、外観もこんなに鮮やかに塗られていなかったです。

見沼区　斉藤

🍀おおみや教会通信はカトリック大宮教会のＨＰ（https://catholic-omiya.net）でご覧になれます。
＊ご意見や投稿（本などの感想、特集してほしいことなど）を募集しています。
FAX か郵送で受け付けています
〒330-0803　さいたま市大宮区高鼻町２丁目３５０　FAX 048－641－2724
カトリック大宮教会　広報部宛
＊おおみや教会通信　１月号は 1/__　　発行予定、原稿締め切り 1/__